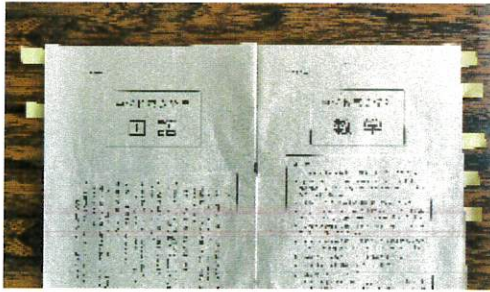


できる・できる・できる

国・県・市の学力調査 重点課題の改善状況を 自校採点にて分析



本校では、毎年、国や県、市の学力調査終了後に、直ちに自校採点を行い、調査結果を分析して改善に向けた取組を五月から進められるようにしています。

全国学力調査が、今、国が最も重視する学力、学習指導要領で求められている学力の定着状況をはかるものであるならば、学力向上を重点取組事項の一丁目一

番地に位置づける本校の最も客観的な検証軸となりうると捉えているからです。

先月の十八日に三年生が受検した全国学力調査は、本校に新聞やテレビの取材が入ったため、調査に真剣に立ち向かう生徒の様子をご覧になった方も多くいらつしやると思います。

全国学力調査は、平成十九年四月に、四十三年ぶりに復活した国の学力調査ですが、再開した年から十五年が過ぎても変わらぬ重点課題があります。それは「自分の考えの根拠を明確にして表現する力」です。毎年実施の国語、数学に加え、年によって加わる理科や英語にも共通する記述式問題の正答率の課題です。

重点課題であるため、国は毎年、その改善状況を見る必要があるところからか、今年度の調査にも同問

題が複数問出題されました。これは、国の学力調査に限らず、県の学力調査にも同問題が出題されています。

毎年、行っているのですが、調査当日の朝、国、県の学力調査の問題冊子を見渡し、「自分の考えの根拠を明確にして表現する問題」に付箋紙を付けています。写真のとおり、今年もたくさんの方の付箋紙が付きましました。

調査終了後に、直ちに教科担任が採点した同問題の得点率と前年度との比較は次のとおりです。

〈重点課題問題の得点率〉	
●県の学力調査	
国語 六九・四	(一年次から十四五・四)
数学 七一・九	(一年次から十三〇・五)
●国の学力調査	
国語 五九・〇	(二年次から十三・二)
数学 三八・五	(二年次から十一・〇)

特に、二年生は国・数ともに前年度からの伸びが著

発行者 学校
長崎立梅香崎中 英見
校長 高坂 英
HP: www.nagasaki-city.ed.jp/umegasaki-j
TEL095-824-4997
FAX095-822-4412

しいです。

これは、同問題の無解答率にも表れており、国語の無解答率が前年度から一八・一、数学が一七・〇となつています。二年生は、昨年度の入学当初の学力検査で「自分の考えの根拠を明確にして表現する問題」にまったく手を付けることができなかった生徒は四人に一人程度でしたが、一年間で国語が無解答率四・一、数学七・三と大幅に改善しています。

〈質問紙調査の結果〉
「自分にはよいところがあると思う」
肯定 八七・〇%

国の学力調査には、質問紙調査もあり、本校の校訓に沿った目指す生徒像にある「自信をもって動ける生徒」の成果も見えました。

合言葉「できる・できる・できる」の成果と喜んでいきます。今後も、学力調査の対象教科に限らず、全教科、あらゆる教育活動で学力向

上に取り組み、さらなる「しんか」を目指します。

大雨に備えて 「避難情報」 の確認を

今年も大雨への対策が必要

な時期となりました。先月に学校で行った避難訓練の際にも、大雨に備え、避難情報の得方について確認をしました。大雨等による居住地域への「避難指示」(警戒レベル4)等の発令に係る対応について生徒に指導しています。

保護者の皆様におかれましても、ご家庭であらためて警戒レベル4等の発令に係る対応についてお子様にご確認願います。



【確認事項】
○居住地域(梅中校区は中央地区)に避難指示が出た場合は、「自宅待機または避難所に避難」

※平日の朝に避難指示が出た場合は、絶対に学校に登校しないということを確認ください。

避難訓練のたびに生徒に東日本大震災時の「釜石の奇跡」の話をして確認します。それは、「中学生は、命を守る側の人」だということ。岩手県釜石市の三千人近い小・中学生のほぼ全員が避難し、奇跡的に無事だったのはどうしてか、日ごろからの訓練の成果、想定にとらわれず、状況に応じて適切に判断する学習を深めた成果から、小学生の手を引き、高台に向かう中学生の様子が何度も報道されました。

災害発生時の危険が迫る状況に置かれた時、適切に判断できる梅中生になってほしいと思つています。学校が発出する安全・安心メールを見てからでは遅すぎる場合もあることを知り、まず、必要な情報を自分で得られる中学生になってほしいと思つています。「もしもの備え」ご家庭でもよろしくお願ひします。